

動労の警察労働運動化阻止 ・動労大改革へ!



日刊動労千葉

81.10.25
No. 97
全国版

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五(六・八公衆) 四三三二七二〇七

動労千葉第六回定期大会 告訴弾劾決議を満場一致採択

去る十月九日〜十日の二日間にわたって開催された動労千葉第六回定期大会は、今日の政府・自民党による軍事大国化・改憲攻撃をはじめとする戦争と反動政策に対決するため、八一・三ジェット決戦勝利の地平を堅持し、三里塚闘争を闘う労働運動の強化・拡大をもつて、三里塚二期強行着工阻止、「行革」・国鉄三五体制攻撃粉碎、右翼労働「統一」粉碎、動労「本部」革マル分子追放・一掃、動労大改革へむかって闘い抜く方針を決定しました。

動労「本部」革マル反動分子は、右翼的労働戦線「統一」をもつてする右翼労働貴族を先兵とする日帝・支配階級の総評労働運動解体攻撃に対し、自らが選別排除されることに恐れ、総評・全交運などにその責任をなすりつけ、労働「統一」の積極的推進部隊となっておりません。又なによりも、動労「本部」革マル反動分子のその反動性は、「六・一二津田沼事件」デッチ上げ告訴をもつて動労の警察労働運動化を積極的に推進し、国鉄当局・権力にわが動労千葉を売り渡すという反労働者的・反階級的行為を行なったことでもあります。



第6回動労千葉定期大会
81・3ジェット5日間ストの地平を堅持し「第2、第3の81・3」準備〜 80年代を勝ちぬく自前の労働運動の体制をしっかりと確立した動労千葉。(10月9〜10日)

動労「本部」革マルによるデッチ上げ告訴弾劾 動労大改革の更なる強化をかちとる決議

我々は、労働連帯の真価をかけ、あらゆる反動を打ち破り、八一・三ジェット決戦を闘いき勝利した。

この闘いは、権力・当局そしてスト破り動労「本部」革マルを心の底から震憾させると同時に、三里塚闘争の勝利の展望と日本階級闘争の戦闘的再生への突破口を切り開いた。この三月ストライキの爆発と組織争闘戦の敗北に追いつめられた動労「本部」革マルは、六月十二日、仙台からの帰任者の獲得オルグの渦中で「暴力事件」をデッチ上げ、津田沼支部の十名の仲間を権力に告訴するという天人ともに許しがたい暴挙を行ってきた。

この告訴が明らかなデッチ上げであり、権力の手をかりた新たな動労千葉破壊である事は明々白々である。権力は、この告訴を受け、異例の大弾圧体制をしき、七月十五日、全く不当にも六名の仲間を逮捕し、連日にわたる取り調べに名をかりた転向強要組織破壊を行ってきた。しかも、

全員が完黙・非転向で闘いぬくや、何らの証拠もないにもかかわらず、三名を起訴する暴挙を行ってきた。

国鉄当局も、これを格好の理由として、ただただ動労千葉破壊のために、起訴された三名へ休職・逮捕された三名に対し停職一ヶ月という不当処分を行ってきた。

我々は、動労「本部」革マル・権力・当局一体となったかかる攻撃を絶対に許すことではきない。

動労「本部」革マルは、この「労働者が労働者を権力に売りわたす」という、総評労働運動史上に於いて例を見ない反労働者の暴挙をいなおったばかりか、全国大会において、真面目な組合員の「六・一三」デッチ上げ告訴弾劾の声を、又もや暴力的に圧殺することを策したあげくに「告訴によって千葉動労の暴力（!!）に歯止めをかけた。職場正常化をかちとれた」・「告訴は、動労の戦闘的・階級的団結を固める手段である」と公言するにいたった。

今や、動労は、革マル支配の下で、完全に警察労働組合へと転落してしまった。

動労「本部」革マルは、日本帝国主義が、軍事大国化・改憲・大合理化など、侵略戦争に向って労働者・人民に対し大反動攻撃をかけてきている中で、率先して合理化に屈服したばかりか、闘う労働者を権力に売りわたし、暴力で叩きつぶす事をもってそれに応え、延命をはからんとしている。

そればかりか、現在、帝国主義の側から強行されてきている労働戦線の右翼的統一総評労働運動解体―産業報国会化攻撃の先兵になりはてている。

その意味で動労「本部」革マルは、日本帝国主義の最凶悪の手先であり、かつてのナチスのごとき真正正明のファシストである。

我々は、今日、日帝の軍事大国化・改憲の攻撃と対決する反戦闘争の「岩」として三里塚闘争が、労働者階級の最重要な闘いとなっている中で、これを破壊する事・労働連帯の陣型を破壊することを唯一の目的とする動労「本部」革マルを絶対に許してはならない。

我々は、今回の動労「本部」革マルの告訴を徹底的に弾劾し、裁判闘争勝利・不当処分粉砕を闘いけると同時に、革マル分子一掃・動労大改革の更なる強化・三里塚二期決戦勝利を必ず切り開く事を決意するものである。

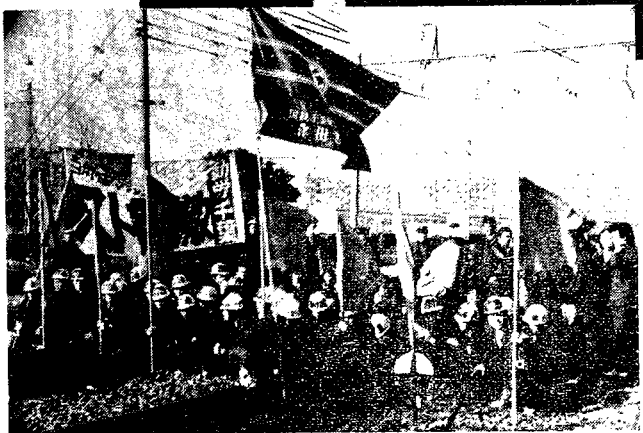
右決議する。

一九八一年十月十日

動労千葉第六回定期大会



公安機動隊に守られて、助役機関士線見スト破り列車を運転する動労「本部」佐倉土屋幹一派（一九八一・二・二四、佐倉機関区）



一糸乱れずジェット延長阻止五日間ストをうちぬいた動労千葉。（一九八一・三・六、総武全線ストうちぬいた津田沼支部）



身ぶり手ぶりの自作自演で「現場検証」をデッチ上げる革マル鳴田、斉藤と船橋警察。（一九八一・七・八早朝）



右翼労働「統一」の尖兵動労「本部」革マル反動分子を全戦線から追放・一掃しよう！

（一九八一・十・二〇、明治公園）